

## 「学力向上ポートフォリオ(学校版)」

### ～ 「真の学力」 育成の継続的な取組を目指して ～

#### ＜本年度の学力向上基本方針＞

- 新学習指導要領を見据えた授業の充実を図る。
- 生徒一人ひとりが「わかる授業」を実現する。
- グループごとの調べ学習や話し合い活動、発表学習の推進を図る。
- 個に応じた指導や支援をより一層進める。
- 家庭学習の充実を図る。

#### ＜本年度の学力向上策＞

##### ＜国語＞

- ・伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項をより強化していくため、年間を通して漢字練習（小テスト）を実施し、基礎的な言語に関する習得を目指す。
- ・生徒の思考を深める話し合い活動になるように、発問やテーマに工夫を行い、また、発表の方法もドラマ化や手紙文にしたりする中で、生徒の興味関心を高められるようにする。

##### ＜数学＞

- ・小テストや単元ごとのテストを実施し、基礎学力の確実な定着を図る。
- ・数学的な見方、考え方や応用力を育成するために、日常の事象において、与えられた情報を目的に応じて図や表などに表し、適切に処理し、問題を解決する活動を取り入れる指導を実施する。

##### ＜社会＞

- ・新聞等を活用した課題解決的な学習や、社会的事象の関連や因果関係などを考える授業を意図的・計画的に取り入れ、複数の資料を読み取り、多角的・多面的に考察していく。
- ・世の中の出来事に対する関心も個々に大きな違いがあるため、家庭と協力しながら、積極的に新聞を活用して時事問題を分析していく学習も取り入れる。

##### ＜理科＞

- ・ワークシートを活用して、重要語句の確認をし、基礎学力の確実な定着を図る。
- ・実験を主体的に取り組む生徒が多くいるので、興味関心をもたせて、科学的な探求能力や問題解決能力をさらに高めていく。

##### ＜G・S＞

- ・会話やスピーチなどのスピーキング活動の量を増やし、表現する力とコミュニケーション力の向上に努める。
- ・実際のコミュニケーションではその場の状況や相手の表情やジェスチャー、文脈など様々な情報から正確な情報を理解する力をつける学習を進めていく。

##### ＜その他＞

- ・テスト前、テスト前以外での適切な時期にも補習を継続的に実施する。
- ・「学習の道しるべ」を積極的に活用することにより、事前指導、事後指導を充実させ、定期テストに活かす。
- ・「オンリーワンノート」などの取組を通して、家庭との連携をより一層密に行い、基礎学力の確実な定着を図る。

## <本年度の振り返り>

### <国語>

市学力状況調査の結果から、書くことの力が弱いことが分かった。その改善のためには、表現力や思考力を深めることも同時に身につけることが必要である。また、発問やテーマに工夫をし、発表の方法についてもドラマ化や手紙文にしたりすることで、書くことの力をつけていきたい。

伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項をより習得するために、その基礎・基本となつてはたらく言語（語句の意味、漢字の読み書きなど）を身につけることが大前提であり、併せて学んだことを普段の言語活動の中で活用していくことが求められる。また、言葉のきまりに関する学習内容を、書くことや話すことと結び付けていくことで、双方の力を確実に身につけていきたい。

### <数学>

市学力状況調査の結果から、正答数が7～11問の割合が市全体の結果よりも高い所が見られた。さらなる反復練習が必要である。

また、上位層のさらなるレベルアップを目指し、応用力を育成するために、日常の事象において、与えられた情報を目的に応じて図や表などに表し、適切に処理し、問題を解決する活動を取り入れる指導を適宜実施していきたい。

今後も自分で考えたり、友達同士で話し合ったりするなど、生徒の主体的、能動的、協働的な活動を取り入れた授業に積極的に取り組んでいきたい。

### <社会>

市学習状況調査の結果から、複数の資料を読み取り、多角的・多面的に考察して課題の答えを適切に表現する問題の正答率がやや低いことが分かった。今後、①授業マネジメント（ねらいの明確化、学習内容の振り返り、板書の工夫）②基礎アップ（地図、年表、統計資料等の読み取り）③授業スキル（新聞記事、ICTの効果的活用）④アクティブ・ラーニング（学習課題解決）の4つの因子を生かした授業実践を心がけていきたい。

### <理科>

市学習状況調査の結果から、全般的に理科を苦手としている生徒が多いことが分かった。学年により差は生じているが、理科としては「確かな学力をつけるためには、自ら学ぶ姿勢が必要である」と考えている。そのため、まずは魅力ある導入から、積極的な学習姿勢（アクティブラーニング）、確実な学習習慣の確立へとつなげたい。その結果として確かな学力が身に付くよう、一連の流れを大切に授業を行っていく。

### <G・S>

市学習状況調査の結果から、外国語(英語)の能力や言語文化に対する知識、理解は各学年で十分に身につけてきていることが分かった。さらに、様々な場面で英語を活用して表現していく力を向上させる必要がある。そのために実際に英語をコミュニケーションの手段として使っていく発信力を身につけさせていきたい。

第3学年では3年間を通してコミュニケーション活動を中心据え行ってきた結果、ミスを恐れずに積極的に伝えようとする力と理解しようとする力が向上した。言語文化に対する知識・理解の分野で、文構造を理解して言語を使用することが今後の課題である。より正確に伝える力の育成に力を注いでいきたい。

### <その他>

- ・個別指導の一貫として、テスト前、長期休業中など適切な時期に補習を実施した。
- ・定期テストに向けた取組として、「学習の道しるべ」を活用した事前指導（学習計画の立て方、計画的な学習の見届け等）及び事後指導（計画的な学習の実施に対する振り返り等）を実施した。
- ・基礎学力向上や家庭学習の定着のための取組として、「オンリーワンノート（家庭学習用ノート）」を活用した学習指導を実施した。

今後もこれらの実施を通して、学習指導の充実を図りたい。